Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 20第35号
2021年（令和三年） 3月12日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

2/25～3/3のNYMEX・WTI先物市場は、59.75～63.53ドルの範囲で推移した。

3月4日は、OPECプラスが閣僚監視委員会（JMMC）をWEB開催し、4月以降の協調減産について、内需の季節増加に対応したロシアの13万b/d・カザフスタンの2万b/dの減産緩和を認めるにとどめ、サウジの100万b/dの自主減産も維持されることが明確になったことで、需給改善に対する期待が高まり、大幅続伸した。4月限の終値は前日比2.55ドル高の63.83ドル。

週末5日も、前日のOPECプラスの合意で、大規模な減産緩和がなかったことを好感し、3日続伸した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比1基増の310基と2週連続の増加となった。4月限の終値は前日比2.26ドル高の66.09ドル。

週明け3月8日は、6日に米国の追加経済対策法案が上院を通過、さらに、7日にはサウジ東部のダーラン・主要積出港ラスタヌラの石油施設にドローン・ミサイル攻撃を受けたとの報道、イエメンの親イラン組織フーシ派の犯行宣言があり、朝方高騰したが、その後、大きな被害はなく、出荷にも障害がなかったことから、持ち高調整・利益調整売りもあり、4営業日ぶりに反落した。4月限の終値は1.04ドル安の65.05ドル。

9日は、米国石油在庫の官民の統計発表を前に、最近の高値による利益確定売りが優勢となり続落、65ドル台を割った。また、攻撃を受けたサウジ石油施設の被害が軽微であったことも、値下がり要因となった。4月限の終値は前日比1.04ドル安の64.01ドル。

10日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告が、原油は大幅積み増しであったが、ガソリン在庫が大幅取り崩しであったこと、また、米国の大型経済対策の議会通過、OECDの2021年成長見通しの上方修正を好感し、3営業日ぶりに反発した。4月限の終値は前日比0.43ドル高の64.44ドル。

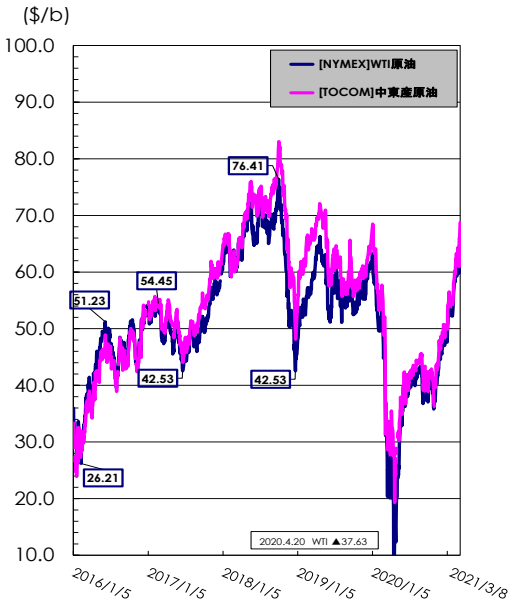
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は2月25日～3月3日の間61.60～64.90ドルの範囲で推移した。3月4日63.10ドル、5日66.20ドル、8日69.30ドル、9日66.80ドル、10日64.90ドルと推移した。

為替は2月25日～3月3日の間106.06～106.78円の範囲で推移した。3月4日106.99円、5日107.90円、8日108.37円、9日109.13円、10日108.57円で推移した。

財務省が3月5日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月中旬の原油輸入平均CIF価格は、37,288円/klで、前旬比1,422円高、ドル建て56.61ドルで前旬比1.70ドル高、為替レートは1ドル/104.72円。

そのような中で、3月8日時点の小売価格は、ガソリンが前週（3月1日）比1.5円の値上がり、軽油も同1.3円の値上がり、灯油は18円の値上がり（18リットルベース）だった。ガソリンは15週連続の値上がり、軽油も15週連続の値上がり、灯油も15週連続の値上がりだった。この週（3月第2週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比1.0円の値上げとなった。

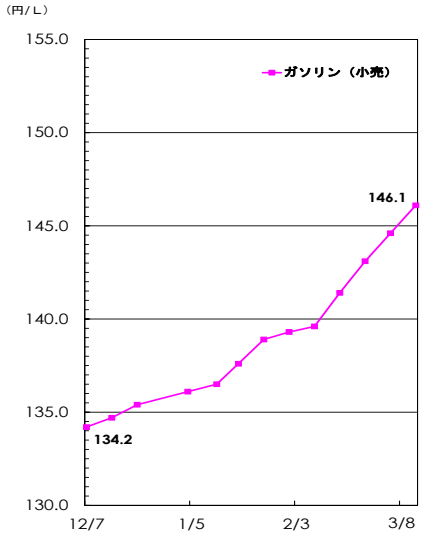
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/28 ～ 3/6	2,727	▼ -108	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	70.8	▼ -2.8	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	3/6	10,138	▲ 104	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/8	68.76	▲ 5.27	▲ 37.4
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/8	65.05	▲ 4.41	▲ 33.9
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	2月中旬	56.61	▲ 1.70	▼ -14.02
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	37,288	▲ 1,422	▼ -11,360
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	104.72	▼ -0.87	▲ 4.78
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/8	109.37	▼ -1.88	▼ -6.36



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/28 ～ 3/6	871	▼ -29	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	853	▲ 37	▲ –
	輸出		〃	123	▲ 21	▼ –
	在庫		3/6	1,839	▼ -106	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/2 ～ 3/8	57.9	▲ 2.4	▲ 6.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/2 ～ 3/8	56.4	▲ 1.9	▲ 11.2
		(TOCOM/中部)	3/8	60.5	▲ 5.5	▲ 10.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/8	146.1	▲ 1.5	▼ -0.3

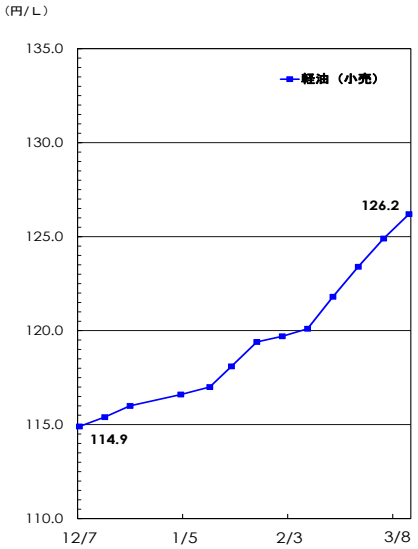
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

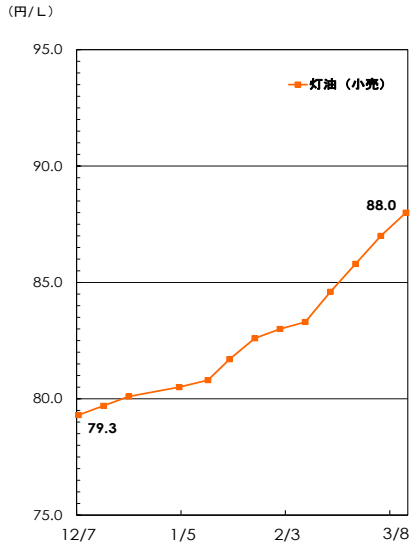
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/28 ～ 3/6	637	▲ 116	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	612	▲ 90	▼ –
	輸出		〃	52	▼ -38	▼ –
	在庫		3/6	1,440	▼ -27	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/2 ～ 3/8	60.1	▲ 1.8	▲ 3.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/2 ～ 3/8	60.4	▲ 1.3	▲ 3.5
		(TOCOM/中部)	3/8	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/8	126.2	▲ 1.3	▼ -0.7

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/28 ～ 3/6	318	▲ 28	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	426	▲ 97	▼ –
	輸出		〃	51	▲ 25	▲ –
	在庫		3/6	1,444	▼ -158	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/2 ～ 3/8	59.4	▲ 2.0	▲ 4.3
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/2 ～ 3/8	56.8	▲ 0.5	▲ 9.6
		(TOCOM/中部)	3/8	57.5	➡ 0.0	▲ 6.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/8	88.0	▲ 1.0	▼ -3.6



■ 関連情報

1　海外/原油

3月10日のNYMEXのWTI先物原油は、米国ガソリン在庫の大幅取り崩しや経済回復への期待感から、反発した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告によれば、テキサス寒波による製油所稼働の低下で、原油は前週末比1,380万バレル増と市場予想（同80万バレル増）を大きく上回る積み増しで売り優勢で始まったが、ガソリン在庫が大きく減少したこと好感し、大きく買戻された。また、1.9兆ドル規模の米国大型経済対策の議会通過や経済協力開発機構（OECD）の2021年成長見通しの上方修正（4.2%→5.6%）も上昇要因となった。4月限の終値は前日比0.43ドル高の64.44ドル、5月限の終値は同0.43ドル高の64.42ドル。

EIAによると、3月8日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.0セント値上がりの1ガロン2.771ドル（79.2円/㍑）、ディーゼルは同7.1セント値上がりの3.143ドル（89.9円/㍑）となった。ガソリンは15連続の値上がり、ディーゼルは18週連続の値上がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年2月28日～3月6日に休止したトッパー能力は61.0万バレル/日で、前週に対して8.7万バレル/日増加した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は272.7万klと、前週に比べ10.8万kl減少。前年に対しては55.7万klの減少。トッパー稼働率は70.8%と前週に対して2.8ポイントの減少、前年に対しては13.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.2%減、ジェット/7.6%減、灯油/9.5%増、軽油/22.2%増、A重油/7.3%減、C重油/4.2%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl（前週比2.8万kl減）。軽油の輸出は5.2万kl（前週比3.8万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でA重油が減少、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.3万kl（対前週4.5%増）と2週振りに増加した。ジェット8.1万kl（対前週3.1%増）、灯油42.6万kl（対前週29.5%増）、軽油61.2万kl（対前週17.2%増）、A重油23.1万kl（対前週7.6%減）、C重油16.6万kl（対前週4.0%増）。

（単位：千KL）

	今週 (2/28 ~ 3/6)	前週 (2/21 ~ 2/27)	前週比	
ガソリン	853	816	▲ 37	(5%)
ジェット燃料	81	78	▲ 3	(4%)
灯油	426	329	▲ 97	(29%)
軽油	612	522	▲ 90	(17%)
A重油	231	250	▼ -19	(-8%)
C重油	166	160	▲ 6	(4%)
合　計	2,369	2,155	▲ 214	(10%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月6日時点の在庫は、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは183.9万kl、前週差10.6万kl減。前年に対しては16.0万kl多い。

灯油は144.4万kl、前週差15.8万kl減。前年に対しては1.6万kl多い。

軽油は144.0万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては13.3万kl多い。

A重油は67.6万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては3.1万kl少ない。

C重油は182.7万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては1.6万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (3/6)	前週 (2/27)	前週比	
ガソリン	1,839	1,945	▼ -106	(-5%)
ジェット燃料	757	758	▼ -1	(-0%)
灯油	1,444	1,602	▼ -158	(-10%)
軽油	1,440	1,467	▼ -27	(-2%)
A重油	676	684	▼ -8	(-1%)
C重油	1,827	1,823	▲ 4	(0%)
合　計	7,983	8,279	▼ -296	(-3.6%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月2日～8日の指標原油価格は前週（2月23日～3月1日）比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比1.0円の値上げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

3月2日～3月8日の製品スポット市況は、2月23日～3月1日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近（3/2～3/8）の陸上スポット価格平均値（千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格）は、前週比で、ガソリンは2.4円の値上がり、灯油も2.0円の値上がり、軽油も1.8円の値上がりだった。直近週（3/2～3/8）において、ガソリンは110～112円台で値上がり、灯油は58～60円台で値上がり、軽油は59～60円台で値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（3/2～3/8）に、前週比で、ガソリンは2.2円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間（3/2～3/8）に、ガソリンは111～113円台で大きく値上がり、灯油は55～59円台で大きく値上がり、軽油は60～61円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.9円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は1.3円の値上がりだった。先物価格は、同期間（3/2～3/8）に、ガソリン107～113円台で大きく値上がり、灯油54～60円台で大きく値上がり、軽油58～63円台で大きく値上がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/2 ~ 3/8)	前週　(2/23 ~ 3/1)	前週比
スポット価格	レギュラー	57.9	55.5	▲ 2.4
	灯油	59.4	57.4	▲ 2.0
	軽油	60.1	58.3	▲ 1.8

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(3/2 ~ 3/8)	前週　(2/23 ~ 3/1)	前週比
先物価格	レギュラー	56.4	54.5	▲ 1.9
	灯油	56.8	56.3	▲ 0.5
	軽油	60.4	59.1	▲ 1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/2～3/8実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 2.2
灯油	▲ 2.0	▲ 0.5	▲ 1.2
軽油	▲ 1.8	▲ 1.3	▲ 1.6
A重油	▲ 1.7		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（3月1日）比1.5円高の146.1円、軽油も同1.3円高の126.2円、灯油は18㍑ベースで同18円高の1,584円（1㍑ベースでは同1.0円高の88.0円）。ガソリンは15週連続の値上がり、軽油も15週連続の値上がり、灯油も15週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは45都道府県、横ばいはなし、値下がりは2県だった。全国最安値は139.6円の徳島県（前週比2.6円高）、その次に安かったのは141.0円の宮城県（同1.2円高）、最高値は153.6円の鹿児島県（同0.6円高）だった。最も値上がりしたのは同2.6円高の富山県（147.4円）と徳島県（139.6円）、横ばいはなし、最も値下がりしたのは同0.2円安の愛知県（144.4円）だった。

今週（3月2日～8日）は、指標原油価格が値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週（3月11日～17日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比1.0円の値上がりとなった。次回調査時（3月15日）のガソリンの小売価格は値上がりが予想される。

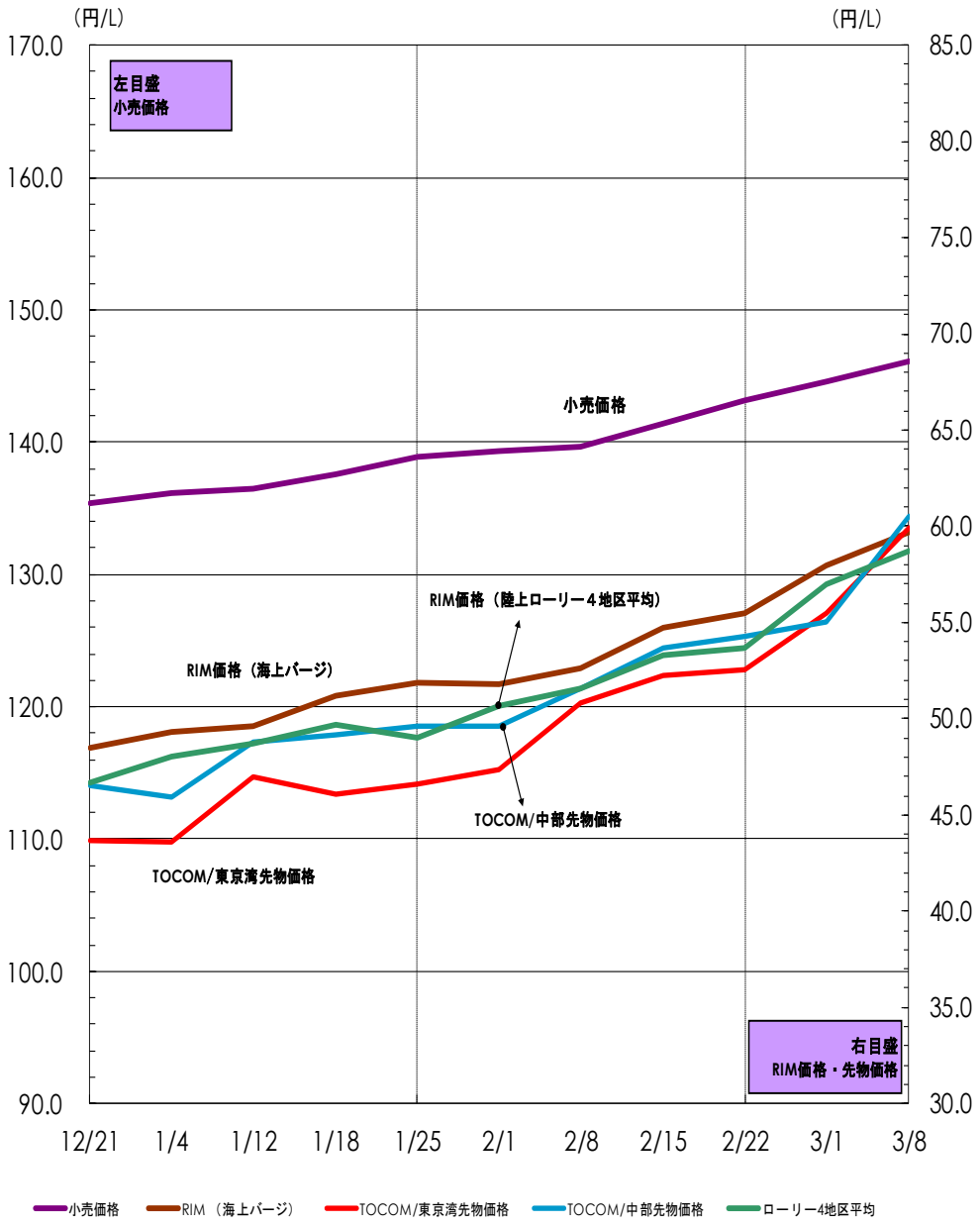
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/8)	前週　(3/1)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	146.1	144.6	▲ 1.5	08/8/4	185.1
	灯油	88.0	87.0	▲ 1.0	08/8/11	132.1
	軽油	126.2	124.9	▲ 1.3	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/12/21　～　2021/3/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2020第36号）の公表は、3/19（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和2年3月末現在）は、8月26日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。